



かれんと

結婚する、って…

男性も女性も自立して豊かな社会を築くために、それぞれの役割を果たしていこうという考えが広がっています。

社会の基礎的単位である「家庭」においても、役割の見直しが論じられるようになってきました。

今、話題になっている夫婦別姓に象徴されるように、最近では、お互いに「個」を尊重し、自己実現を促しあうカップルも多くなりました。また、人格を認め合える理想の結婚相手が現われるまで、と、シングルを続けている人もいます。

このように、従来の固定的な考えと、人として伸びやかに生きたいという新しい欲求が交錯するなか、結婚観は次第に、確実に変化してきています。

一方、「男は結婚してこそ一人前」という考えも、依然根強く残っており、結婚を望んでいるのに結婚相手のいない男性も増えて、新たな社会問題になっています。

主な内容

- ・結婚する、って…
- ・ウエディングベルは誰のため？
- ・すてきなカップル
- ・青年と女性の海外研修報告会
- ・意見文・標語入選者
- ・いくありていのつどい
- ・ひとくちメモ



嫁で男にへり女 ● 均合わぬは不徳の妻 ● 亭主と響は強いがよい ● 似た若夫婦 ● 女房は家の大黒柱 ● 夫婦喧嘩は犬も食わぬ ● 夫婦喧嘩も無いから起こる

ウエディングベルは誰のため?

司会

皆さんこんにちは。私たちは「かれんと」の編集をしている市民ボランティアです。この情報紙は、女性の地位向上を目的に発行されています。今回の特集で時代の流れと共に、結婚観がどう変わったか、そして今、身近にどのような問題が起っているのかを話し合ってみたいと思います。では、まず市内で結婚相談所を開いているA男さん、最近の傾向はいかがですか。



私の所では、男性ばかり登録され、紹介する女性がいなから、見合いが成立しないんです。このままでは、真面目に一生懸命働いても、結婚できない男性が相当でてると思われまます。男も女も数はそう違わない筈なのに、結婚して夫を持つと、いろいろ煩わしいとかいって、独身主義を貫こうとする女性が増えているのは、男性にとって困った傾向だと思えます。本人が恥ずかしくて母親が相談に来るのも多く、高望みはせず、丈夫で気持ちがいい人だったら誰でもいいと



いうのですが。

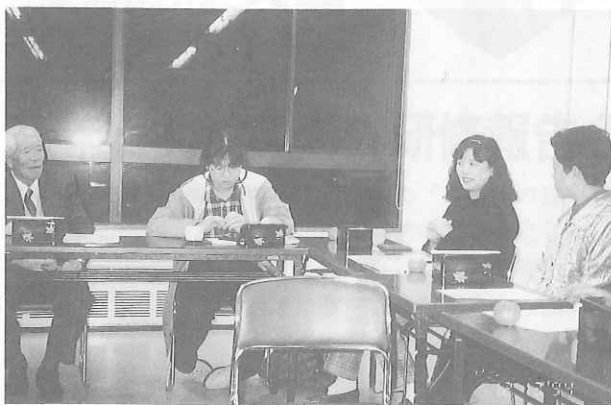
私も結婚をいそぎませんでした。22歳で大学を卒業し、教員をしましたが、自分の人生なので、自分自身を大切に生きたくたかつたし、仕事が楽しくて結婚なんか考えられませんでした。でも27歳になったとき、周りも結婚を勧められ、親が心配するので、自分のやりたいことを第一に考えた上でなら、そろそろ結婚してもいいかなと考えました。結婚前は自分の母の姿をみて、結婚して夫に任せ、三指ついで

司会

高齢化した社会にあつて、孫夫婦と同居する老人という例も、最近ではみられるようになりましたね。Bさんの場合は?



私は21歳のとき28歳の夫と結婚して、商売をしながら、もう15年経ちました。3人の子ともがいます



が、何もわからないうちに結婚しちゃったから、子育てに追われて大変だった時期は、何で結婚なんかしなかったのかな、もっと遊んでおけばよかった"などと悩んだ

司会

こともありました。けれども、ときには夫と話し合い、子どもたちの成長を楽しみに、我慢して壁を一つずつ乗り越えてきました。夫とうんと年が離れているので、初めのうちは、いつも頼っていられると思っていたけれど、結婚して長く暮らしていくうちに、年に関係なく夫婦はお互いが頼ったり、頼られたりするものだということがわかりました。



ウチは4歳とまもなく1歳になる子どもがいます。妻は結婚前他県で仕事をしていたのですが、結婚と同時に辞めて、今は専業主婦です。子どもがまだ小さく、手がかるるので、妻はとても疲れの少ないです。で、私は風呂の掃除とか、食事の片付けとか自分の衣類のアイロンかけとか、少しでも妻の負担を減らすよう、家事の協力を

夫婦は他人の集まり ● 夫前まで わしや九十九まで ● お前まで 家は無くてならぬものは上り櫃と女房 ● 小櫃三台持ったら嫁に行くな ● 縁は異なもの味なもの ● 夫婦は合わせもの離れもの ● 男にとってよき日は一生に二日ある。妻めとる日とほうむる日だ ● 女は三界に家なし



司会 專業主婦をどう思いますか。

会 E男さんの奥さんは專業主婦に満足していると思いますか。
 半々ではないでしょう。特にウチは核家族だし、育児について相談相手がある、戸惑うことがあると、仕事の方がいいと思うんじゃないかな。

司会 先輩方はとても理想的な結婚をされたようですね。私の周りにはあまりないケースだと思えます。男性が女性を対等にみている様子がとても自然に感じます。女性を抑えつけようとしていないか。

会 ではG男さん、独身男性の立場ではどうですか。
 私は今、医療関係の仕事をしてますが、病院内の様子や母の姿から考える結婚は女性が我慢するもの、という印象が強いですね。何だか損だなという気がして。やっぱり、お互いに思いやりを持って暮らせる結婚を望みます。

司会 今、先輩方の話しを聞いて、独身女性としては結婚をどう考えますか。
 変人と思われそうですが、「はい」と返事をしない人、水を持ってきてといたら、熱いお茶を持ってくるような人。要するに、年中喧嘩ができるような人で、自分の意志を持っている人がいいですね。あんまり言いなりになるような物足りないですよ。

司会 どのような人ですか。
 責任感で結婚するという考えにはならないのですか。
 正直いつてそういう責任感はありません。社会的貢献は自分自身の力でしたいと思えます。



- 79歳 結婚相談員
 - 34歳 結婚歴7年
 - 34歳 結婚歴7年
 - 37歳 結婚歴15年
 - 34歳 結婚歴6年
 - 21歳 独身
 - 27歳 独身
- 司会 「かれんと」編集員

司会 時代と共に結婚に関する考えも大きく変わってきたようですね。C男さん、何かご意見がありますか。
 私は結婚後も教師を続けていたんですが、どうしてもやってみたい仕事があるため、3年間専門の学校に通いました。

全員 い♡♡♡
 ごちそうさま。(笑)

会 私も夫からその話しを聞いたとき、反対しようなんて思いませんでした。自分の目標に向つてもえている夫の姿はともいきいさせていて素敵でしたから。

た。そのときは生活費から学費まで、すべて妻の世話になりました。妻は気持ちよく賛成して、応援してくれましたから、本当に感謝しています。

すてきなカップル

とても細やかに気の付く真理子夫人。しかし、夫のピクター・ホークス氏は「ママ（母親）と結婚したわけではないのだから何から何まで世話をやいてもらおうなんて思わない。」と笑う。彼は8年前、アメリカから来日した。真理子さんとは結婚して3年、市内で英会話学校を経営している。何でも理解し合えるまで話し合い、そのためにも夫婦の時間を大切にしているという。男女平等は大切なことで、家事の分担も当然のこと、と考えている。ただ、お互いの得意分野を担当する、ということで女だから男だからという決め方はしていない。「料理は真理子の方が上手なので」と彼は皿洗いや後片付けにまわっているそうだ。何事も押しつけたり、きめ付けるのではなく、補い合い、助け合うパートナーシップを実践している。

日本では、子どもの時から男女の異なる生き方を教えがちだが、アメリカでは、そういったことをしていないという。ただし、アメリカではベトナム戦争を境に、社会が大きく変化し、平等意識も女性の社会参加も急ピッチで進んだ結果、共働き夫婦の育児などにも問題が生じた。子どもを持ちたがらないカップルも増加し、離婚率もアップ、家族関係が歪むなど、大きな社会問題になっている。「理想の共生型社会にむけて努力するのは必要なことだが、アメリカのように早急なチェンジは危険です。じっくりと力をつけながら進めるのが良いのでは」とアドバイス。「妻がはつらつと活動しているのは夫として、ハッピーです。女性の社会参加が今日の生活のレベルアップに結び付いていることも認めるべきですね」と微笑んだ。



意見文・標語の入選者

女と男が対等な立場で生活し、豊かで平和な社会を築くための意見文・標語を募集。厳選な審査の結果次の方々が入選し、去る2月13日、市教育長から表彰された。

意見文の部

「男女共生社会を考える」

千渡 岡田 真一さん

標語の部

「両性の視点と感性 生かされて豊かな社会 新世紀」

日吉町 齋藤 満子さん



—いくありていのつどい—

今回12回目を迎えた「いくありていのつどい」は、2月25日市民文化センターにおいて盛大に開催された。

女性問題を考える地区別懇談会の報告にひき続き、前かながわ女性センター館長の金森トシエ、読売新聞社婦人家庭部長の鹿嶋敬の両氏による講話と対談で、会場は大いに盛り上がりを見せた。

特に鹿嶋氏は、男性では数少ない女性問題の良き理解者で、実践者でもある貴重な存在。

—高齢化社会になった今、性別役割分業から脱皮し、男性も女性もそれぞれに自立し、お互いを束縛することなく「個」を大切にする時代である。また仕事と家庭の両立だけではなく、趣味や地域社会への参加も含め四立させるような欲ばった人生が必要等々—。

両氏のなごやかな対談に、会場からは「わかりやすいお話、とても参考になった」など、373名の参加者たちには大変好評で、男性にも女性にも有意義な「つどい」であった。



青年と女性の海外研修報告会



昨年の「県青年の翼」で米国に板荷の畔上弘之さん、「女性の海外研修」で英・仏に千渡の竹澤雄子さん、樺山の山内和子さんがそれぞれ研修に参加した。

2月19日市民文化センター大会議室において、女性問題研究会鹿沼支部が中心となり、報告会が行なわれた。

阪神・淡路大震災の被災地の皆様に、心からお見舞い申し上げます。なんとか力を合わせ、早く立ち上がって欲しいと祈ります。復興に向けては国民みんなの努力が必要でしょう。さて、「かれんと」も丸三年を迎えますが、今回から編集員の仲間が増えました。今後も身近な問題からみなさまと共に紙面作りを考えていきたいと思いません。



ひとくちメモ 『ジェンダーとセックス』

- ・セックス＝生物学的な違いにより区別される男女の性差
- ・ジェンダー＝社会・文化的に作られた男女の性差

女性としての生き方や行動様式は、女に生まれたから決まるのではない。生まれた後、社会・文化的に女性として作られてきた。

ボーヴォワールが「人は女に生まれぬ。女になるのだ」と言ったように、セックスではなくジェンダーの力によって「女にされた」のである。

これまでの女性の生き方は、主体である男性によって型どられてきた。男性に都合の良いように振るまう女性が賢明と評価され、理想の女性と称讃されてきたのだが、もう一度ジェンダーをみなおしてみたい。

参考文献 川上婦志子「女性と生涯学習」